

聖書：ヨハネ 16：12～15

説教題：キリストの御霊

日時：2018年5月20日（朝拝）

招詞で読んでいただいた 16 章 7 節で、イエス様は「わたしが去って行くことは、あなたがたの益になる」と言われました。わたしが去ることによって「助け主」が来るからだ。この助け主とは、ご存知の通り、聖霊のことです。そしてこの約束は本日祝っているペンテコステの日に成就しました。果たしてこの助け主はどういう意味で私たちを助けてくださる方がこの箇所にも述べられています。

昨年ペンテコステ礼拝ではこの前の部分、7～11 節を見ました。そこで語られていたのは宣教における聖霊の働きでした。イエス様は 15 章 26～27 節でこう言っていました。「わたしが父のもとから遣わす助け主、すなわち、父から出る真理の御霊が来るとき、その方がわたしについて証ししてください。あなたがたも証しします。初めからわたしと一緒にいたからです。」御霊がイエス様について証しするけれども、あなたがたも証しする、すなわち宣教すると言われていました。しかし弱くて頼りない弟子たちにどうしてそのことができるでしょう。そのことについての素晴らしい約束が 8～11 節の部分でした。聖霊は罪について、義について、さばきについて世の誤りを明らかになさいます。すなわちこの世の人々にそのことを確信させます。そのことが確かにペンテコステの日に成就しました。使徒の働き 2 章でペテロの説教を聞いた人々はどう反応したのでしょうか。彼らは心を刺されて「私たちはどうしたら良いのでしょうか」とペテロや使徒たちに尋ねました。そしてその日に 3000 人が回心して洗礼を受けました。まさに罪について、義について、さばきについて、自分たちの誤りを認めさせる聖霊の働きです。この方がともにいてくださるので、私たちの宣教には望みがあります。聖霊こそが人の心に働きかけ、その誤りを示し、救いの必要性を自覚させ、回心へと導いてくださるのです。

これに続く 12～15 節は、使徒たちまた信者たちに対する聖霊の働きを述べている部分です。イエス様は 12 節で「あなたがたに話すことはまだたくさんありますが、今あなたがたはそれに耐えられません」と言われます。この時の弟子たちは、イエス様が言わんとすることを十分に理解する力がありませんでした。しかし聖霊が来ると、あなたがたに素晴らしいみわざをなす。そのみわざについて 13～15 節に 1 節ずつ、三つのこ

とが語られています。それらを順番に見て行きたいと思います。

まず一つ目に言われているのは 13 節の「聖霊はあなたがたをすべての真理に導き入れます」というものです。この言葉を読む際、いくつかのことを良く考慮することが大事です。その一つはここで言われている「あなたがた」とは誰のことなのかということです。私たちはこのような箇所を読んで、直接自分たちにも当てはめて読みがちですが注意が必要です。結論から先に言えば、もしそうしてしまうと、この箇所の意味を読み違えてしまいます。ここでイエス様が言っている「あなたがた」とは誰のことなのでしょう。それはこの場にいた使徒たちを指します。そのことは文脈からも分かります。14 章 25～26 節：「これらのことを、わたしはあなたがたと一緒にいる間に話しました。しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。」 ここでの「あなたがた」は、今日の私たちには当てはまりません。なぜならイエス様はイエス様とこれまで一緒にいて、様々なことを話して来た人々に対して、「聖霊はわたしが話したことを思い起こさせる」と言っているからです。これは使徒たちにのみ当てはまる言葉です。同じく 15 章 26～27 節：「わたしが父のもとから遣わす助け主、すなわち、父から出る真理の御霊が来るとき、その方がわたしについて証ししてください。あなたがたも証しします。初めからわたしと一緒にいたからです。」 ここでの「あなたがた」も私たちに当てはめることはできません。私たちははじめからイエス様と一緒にいたという経験をしてないからです。これは使徒たちに特有のもので、そのような彼らに対して今日の 16 書 13 節で「すべての真理に導き入れます」と言われています。これは使徒たちに語られた約束なのです。

またもう一つ考慮したいのは「すべての真理」が意味していることについてです。これは文字通りすべての真理なのでしょう。科学、医学、天文学といった分野も含む真理なのでしょう。御霊をいただいたクリスチャンは何でも知っているということなのでしょう。この福音書を前から読んで来て「真理」という言葉で思い起こされるのは、少し前の 14 章 6 節に出て来た「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです」というイエス様の言葉です。ですからここでの真理とは特にイエス様と関係していることが分かります。また先に引用した 14 章 26 節で、御霊はイエス様が話したすべてのことを思い起こさせると言われていました。そのことを考慮するなら、御霊が導き入れるすべての真理とは、まさにそのイエス様が語ったすべてのことを指すのではないでしょう

か。同じく先ほど引用した 15 章 26 節では、御霊はイエス様について証しするとありました。ですから御霊が導き入れるすべての真理とはイエス様に関する事なのではないでしょうか。この後も 13 節後半で、御霊は自分から語るのではなく、聞くままを話すと言われ、14 節ではイエス様のものを受けてあなたがたに知らせるとあります。ですからここで言われているすべての真理とは、イエス様に関する真理、すなわちイエス様がどんな方（人格）であり、何をなさった方（わざ）であるのか、そしてそのイエス様において差し出されている救いに関するすべての真理を意味していると言えます。

もしこれらについて全くチンプンカンプンな弟子たちが、そのまま地上に残され、イエス様が天に昇って行かれてしまったらどうなっていたことでしょうか。キリスト教会は誤謬だらけ、間違いだらけで、すぐに倒れ、つぶれてしまったに違いありません。しかし聖霊が使徒たちを守り、すべての真理に導き入れてくださいました。13 節後半の「やがて起ろうとしていること」とは、この後のイエス様の十字架、復活、昇天、聖霊降臨、そして終末の出来事とその意義を悟らせてくださるということでしょう。そうして正しい真理を、正しい福音を語らせてくださる。そういう聖霊の働きがここで約束されているのです。

そしてこの聖霊の働きはさらにどんな形となって実を結んだでしょうか。それは使徒たちの証言がまとめられた新約聖書諸文書の成立においてです。聖霊はまさにこのために、使徒たちを特別に守ったのです。彼らをすべての真理に導き入れるという聖霊の働きは、私たちが手にしているこの「新約聖書」に結晶化されているのです。ですからこのことを考慮せずに、ただ聖霊が今日も神秘的また直接的に私たちをすべての真理に導き入れてくださるかのように、この 13 節を読むべきではないのです。聖霊によってすべての真理に導き入れられたいと願うなら、私たちにはそのために聖霊が与えてくださった聖書のもとにこそ来なければなりません。ここに聖霊が示したすべての真理が保存されているのです。すべての真理がここにあるのです。その真理のもとで、私たちはその意味を悟らせてくださる聖霊の働き、今日への適用において洞察力を与えてくださる聖霊の働きを求めるべきなのです。私たちはまずこうして使徒たちを導き、この聖書を私たちに与えてくださった聖霊の働きに今朝、感謝をささげたいのです。

二つ目に言われているのは 14 節です。「御霊はわたしの栄光を現されます。わたしのものを受けて、あなたがたに伝えてくださるのです。」 これは聖霊理解の鍵となる御

言葉です。聖霊は何をする方でしょうか。ここに御霊はイエス様の栄光を現わすと言われています。大事なのはこの御霊とイエス様との関係です。時々、ある人はこのように考えます。イエス様は地上で様々な働きをされ、十字架、復活を経て、天へと戻られた。そして今度は選手交代のようにして聖霊が地上に下り、イエス様よりも神秘的で爆発的な働きを始められたと。そしてある人々は、この聖霊に導かれることを願うあまり、イエス様のことはどこかに行ってしまう、それよりも不思議な体験、普通ではないこと、奇跡的な出来事等を追い求めるようになる。そして私も聖霊を体験したと語る。しかし御霊はイエス様の栄光を現わすことに集中される方です。ですからそのように導かれていなければ、私たちは御霊によって導かれているとは言えないのです。

今、「選手交代」という考え方は正しくないと述べました。イエス様は地上の働きを終えて天に戻り、休んでおられて、今度は聖霊が私の出番だと腕をまくって降りて来て活躍しているのではない。使徒の働き 1 章 1~2 節には興味深い表現があります。著者ルカは前の書、すなわちルカの福音書ではイエス様が行い始め、教え始められたことを記したが、その続編となる使徒の働きではその続き、すなわちイエス様が引き続き行ったこと、教えられたことを記すと言っています。ここから分かることは「使徒の働き」という書の主人公は引き続きイエス様であるということです。イエス様は私たちを救うためのすべての恵みを勝ち取って天に昇られた後、その天から聖霊を遣わして働いておられる。従って聖霊は天にいるイエス様と地上の私たちをつないで私たちにイエス様が勝ち取った恵みを適用してくださる方なのです。聖霊は自分が持っている力で私たちを恵むのではなく、イエス様から恵みを汲み、それを私たちのところへと運び、私たちに当てはめてくださる方なのです。そうしてひたすら私たちにイエス様を指し示し、イエス様の栄光を現わす方なのです。

ですから聖霊の導きをいただいている人とは何か特別な体験を誇る人であるより、イエス様のことが良く分かり、イエス様の素晴らしさを心から賛美している人です。暗い闇の中でスポットライトの光が何かを照らし出せば、みなそちらに目がいきます。ステージ上に注目すべきものがあれば光に導かれて皆そちらを見ます。そのように聖霊はキリストを指し示し、私たちにキリストへ導きます。もし私たちがキリストの素晴らしさを知り、キリストを賛美して生きているなら、それは聖霊のお働きによるのです。そうしてこの聖霊こそが私の目を益々キリストに向けさせ、キリストを知る者とし、喜んでキリストに従う者とし、ついにはキリストに似た者となるというゴールまで私たちを導

いて行ってくださる方なのです。

最後の15節にはこうあります。「父が持つておられるものはすべて、わたしのものです。ですからわたしは、御霊がわたしのものを受けて、あなたがたに伝えると言ったのです。」ヨハネの福音書の中でイエス様が繰り返し仰っていることは、ご自分はただ父が与え、父が話したことだけを話しているということです。父なる神と子なる神イエス様は深い一体の関係にあります。ですから聖霊がイエス様から受けて私たちに与えるものは父なる神からのものとも言えるのです。私たちがあずかる祝福は三位一体の神の祝福なのです。聖霊はキリストの栄光を現わすからと言って、父なる神を除外してそうされるのではないのです。私たちは聖霊によってキリストから恵みを汲みますが、キリストの内には神の富が満ち満ちています。ですから私たちは聖霊を通して、キリストばかりか、キリストの内に満ち満ちている父なる神の恵み、私たちの理解を超える無限の恵みに生かされるのです。

このペンテコステの日に改めて思わされることは、イエス様が約束されたこの聖霊の働きがあって初めて今日の私たちのすべての信仰生活がこのように導かれているということです。使徒たちを誤りから守り、すべての真理に導き入れられた聖霊の働きがあって今日のキリスト教会が存在しています。また私たちが手にしている誤りなき神の言葉である聖書が存在しています。エペソ書2章20節に、使徒と預言者が教会の土台であると言われている通り、この聖書こそ教会の土台です。そしてこの真理の書を通して私たちはキリストを知り、その方を信じる者とされました。イエス様の十字架と復活に私たちの救いのすべてがあり、このイエス様において究極的な将来の祝福があると私たちが知るに至ったのはひそかな聖霊の働きのおかげです。そしてイエス様だけでなく、さらにその背後におられる父なる神との豊かな交わりを経験させられているのも聖霊のおかげです。私たちは何か特別なことを求めてさまよい出るのではなく、このように今日ここまで導いてくださった聖霊の確かな導き・働きを覚えて、今朝、聖霊に心から感謝したいと思います。そしてこれからもこの方の働きに益々期待し、この方に祈り、この方のみわざにあずかりますように。聖書を手にすることができていることを感謝し、益々これに聞く者でありますように。それによってイエス様の素晴らしさをさらに知り、イエス様を愛し、イエス様に従い、イエス様に似る者とされますように。そして聖霊とともに世に主イエス様を証しする者たちでありますように。イエス様はこのペンテコステの日、天から聖霊を遣わして私たちを救いの恵みに生かすとともに、私たちを用いて

世への働きを進められます。この聖霊によって天上の主としっかり結ばれ、その恵みを
いよいよ味わいつつ、主の御国を広げる働きに聖霊とともに仕える歩みへと進みたいと
思います。